

介護の現場を
“楽しく”照らす
広報誌
2024 Autumn

Delight

Vol. 1

医療法人 浩治会が運営する施設

当法人では、下記の介護施設、支援事業所などを運営しております。

ご質問・ご相談などは、各施設のQRコードよりHPにお入りいただきお問い合わせいただくか、記載されているお電話番号までご連絡いただけますようお願いいたします。



浩治会HP

- 介護老人保健施設「大今里ケアホーム」
- 居宅介護支援事業所「大今里ケアプランセンター」
- 認知症対応型共同生活介護「グループホームゆめの里」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院（今里校）」

〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-17-16 TEL:06-6975-3090
(グループホームゆめの里 TEL:06-6975-3081)



大今里
ケアホームHP



グループホーム
ゆめの里HP

- 介護老人保健施設「大阪城ケアホーム」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院」
- 居宅介護支援事業所「大阪城ケアプランセンター」

〒536-0014 大阪市城東区鳴野西2-5-24 TEL:06-6961-1151



大阪城
ケアホームHP

- 介護付有料老人ホーム「大宮ケアホーム光」

〒535-0002 大阪市旭区大宮4-2-27 TEL:06-6953-0107



大宮ケア
ホーム光HP

特集

日々の リハビリ風景



KOCHIKAI

これからは、家族様と「チーム」になって進める リハビリがさらに求められるでしょう

浩治会の法人設立30周年を記念して創刊された広報誌「Delight」。
毎号、現場での取り組みや現場スタッフの声を通して、介護施設のさまざまな側面を発信してまいります。
創刊号のテーマは「リハビリ」。介護施設で約30年リハビリに携わられてきた
理学療法士の上田朋子さんに、高齢者リハビリの現状や今後求められる役割などについてお聞きしました。



理学療法士／
大阪城ケアホーム・リハビリ課長
上田 朋子

リハビリのプロとして大切にしていることは「この人の言うことならやってみよう」と思ってもらえる信頼関係だと語る上田さん。「そのためにも傾聴を繰り返し、お気持ちに寄り添うアプローチを続けています」。

在宅復帰施設としての役割へ

これまでの介護老人保健施設（老健）は、リハビリ施設でもあり「生活の場」でもありました。そのため、利用者様の意向に沿いつつ、施設内の「生活目標」に向けた機能訓練などが主なりハビリ内容でした。

ただ、2017年に厚労省が「在宅復帰施設」としての位置付けを強化したことで、利用者様の在宅復帰を目指すことが、老健において重要な役割となりました。

そうした現状のもと、私たちリハビリ職員も在宅復帰に向け、より効率的な訓練を立案・遂行したり、他の介護職員との連携を今まで以上に重視してリハビリに取り組んでいます。

※本誌では撮影時のみマスクを外しております。通常は必ずマスクを着用して介護にあたっています。

家族様にとっても大きな決断に

連携という意味では、家族様とのつながりも不可欠です。なぜなら、在宅復帰は、受け入れる家族様にとっても大きな課題だからです。家族様とのコミュニケーションを意識的に増やし、リハビリの進め方などをオープンに話し合うことが大切です。

そして、一日も早い在宅復帰のために家族様をお願いしたいのは、利用者様に「施設はどう？」などと聞いていただき、もし不安などを抱えられていたら介護職員にお教えいただきたいということです。

浩治会のリハビリは家族様とチームとなり、取り組み、サポートすることを今後さらに重視してまいります。



特集 日々のリハビリ風景

SCENE 1

奥様が待つご自宅への 在宅復帰を叶えた階段昇降リハビリ



階段昇降とは、自宅や屋外を想定して、階段を昇ったり降りたりするリハビリです。まずは、段差の低い4段ほどの訓練用階段を一足一段、あるいは二足一段で昇降することを繰り返し、安全に昇降できるようになったら、通常の階段に移行します。

階段昇降は負荷の高い運動でもあるため、全課が連携しながら慎重に進めます。



Voice

お気持ちに寄り添いながら、 無理のないリハビリを心がけました

実は、S様の入所当初、奥様の入院が重なったことでリハビリ中に涙を流されたことも。心理面のケアも担う作業療法士として、S様のお気持ちに寄り添いつつ、その日の状態に合わせた無理のないリハビリを心がけました。

高齢の方へのリハビリでは、体温や脈拍などのバイタルチェックに加え、表情やお気持ちの変化なども汲み取るよう配慮してきましたが、今回のリハビリでその経験を活かすことができました。



山中 健吾

作業療法士／
大阪城ケアホーム

脳卒中により右半身麻痺になられたS様は、自宅では床を這うように移動されていました。そんなS様のリハビリは、歩行訓練から始まり半年ほどで階段昇降へ。「早く自宅で妻と暮らしたい」と願われていたS様は、熱心に階段昇降にも取り組まれ、約半年後には13段の昇降ができるまでに。そして入所から1年後、念願の在宅復帰を果たされました。
現在は、週3回の通所リハビリで、運動機能の維持を図られています。



SCENE 2

言語聴覚士との絵カード訓練 コミュニケーション能力を高める

絵カード訓練とは、果物などが描かれたカードを見せて名称を答えてもらったり、机に並べたカードの名称を伝え、該当する絵カードを指で差してもらったりする訓練です。

いずれも、言語の正しい理解や表出につながる訓練であり、失語症の方はもちろん、そうでない利用者様にとっても、コミュニケーション能力の向上につながっています。



この日、週に1回ほど行われている絵カード訓練に参加されたのは、T様とS様のおふたり。おふたりとも順調に答えつつも、時には「これブロッコリー？絵がそう見えへんわあ」などと、笑いが生まれるシーンも。

担当していた言語聴覚士・藤井さんが、訓練に興味を持って取り組んでもらえるよう積極的に話しかけるたびに、おふたりとも楽しそうに微笑みながら絵カードに答えたり、指を差したりしていました。



Voice

スムーズなコミュニケーションは
ストレスも緩和させます

言語の理解・表出が困難な状態は、言葉の通じない海外にいるような状態ともいわれます。絵カード訓練によるスムーズなコミュニケーションの実現は、そうしたストレスの緩和にもつながっています。

また、嚥下訓練では首や口、頬の周りをマッサージしたり、栄養士と連携して個々の嚥下能力に合わせた食事形態に調整することも。言語聴覚士として「食」のサポートにも関わっています。



藤井 有香
言語聴覚士 /
大今里ケアホーム



SCENE 3

五感を刺激し、表情もやわらげられる 隣接する公園でのお散歩



週に約1回、20分ほどかけて園内を回る公園散歩。多くの利用者様が、春は梅や桜、夏はサルズベリ、秋はハーブ類などの草花を眺めながら散歩をされます。

自然の中で開放感を味わえる上に、陽光やそよ風が五感を刺激するこのひとは、普段、室内で過ごしている利用者様の脳神経を活性化させるだけでなく、日光によるビタミンDの生成が骨粗鬆症の予防も助ける機会になっています。

Voice

都会の真ん中にある公園は、
最高のリハビリツールです

都会にある介護施設で公園が隣接しているケースは稀でしょう。施設を出て30秒で公園にたどり着けるこのロケーションは、利用者様にも、私たちリハビリ職員にとっても非常にありがたい環境です。

特に、高齢の方のリハビリでは、機能訓練だけでなくメンタルケアも重要です。そういった意味でも、公園は日常的な外出のきっかけになる上に、四季折々の自然も体感できる最高のリハビリツールです。



金岡 宏知
理学療法士 /
大宮ケアホーム光



いつも、愛用の手押し車で公園に出かけるK様も、公園散歩を楽しみにされている利用者様のひとり。理学療法士・金岡さんに付き添われながら、ゆっくりと公園を回ります。

K様に限らず、どの利用者様も、公園から帰ってくると表情がやわらかくなっているといいます。隣接する公園での散歩が、室内とは違ったリハビリやコミュニケーションの時間を提供してくれています。

SCENE 4

脳
の
活
性
化
に
も
安
心
感
に
も
つ
な
が
る
肌
と
肌
を
ふ
れ
合
わ
せ
る
ハ
ン
ド
マ
ッ
サ
ー
ジ



月に1回ほど行われているハンドマッサージの施術時間は、両腕で約15分。まずは腕や手をタオルで包んで握り、関節を刺激します。そして、アロマオイルを手から肘まで広げたら、腕全体をさすり、指も1本ずつ丁寧にマッサージします。

認知症の利用者様にとっては、アロマオイルの香りで脳が活性化されるだけでなく、肌と肌がふれ合うことで安心感も得られるリハビリとなっています。

手や腕をじっくりマッサージしてもらっているO様は、終始リラックスした表情。介護士・樋口さんからの問いかけにも、「気持ちええわあ」と満面の笑みで返されます。

樋口さんによれば、最初は嫌がる方でも、15分のマッサージ後にはほとんどの方が笑顔になれるのだとか。普段あまりお話しにならない利用者様からも、「ありがとう」と言われることが珍しくないそうです。



Voice

1対1で心を通わせられる
貴重な時間にもなっています

ハンドマッサージのリハビリは、約4年前に、ひとりの介護職員の発案から始まりました。現在は、4名の職員が「ハンドケアセラピスト」の認定資格を取得し、施術を行っています。

利用者様と1対1でじっくり向き合いながらコミュニケーションを図れるタイミングは、実はそう多くはありません。だからこそ、認知症の利用者様と心を通わせられるハンドマッサージの時間を今後も大切にしていきたいと思っています。



樋口 佐江子
介護士/
グループホームゆめの里



INFORMATION from 浩治会

SDGsの目標達成に向けた取り組みを始めました

医療法人浩治会は、創設当初より地域社会を幸せにすることを目的にした福祉事業の展開に注力し、さまざまな福祉問題や社会問題と向き合ってきました。

創設以来30年、当法人が続けてきた福祉事業とSDGsの目標は親和性が高いことから、2030年までのSDGsの目標達成に向け、本年よりいくつかの取り組みを開始したのでご紹介いたします。

#1 募金自動販売機の設置

本年5月より、当法人の施設に募金自動販売機を設置しました。飲料を1本ご購入いただくごとに、価格の10%が「非特定営利活動法人 国際連合世界食糧計画WEP協会」、または「日本国際飢餓対策機構」に寄付される仕組みになっています。この自動販売機の設置を通じて、人道支援に協力させていただいております。

#2 ペットボトルキャップでワクチン支援

本年6月より、当法人の施設にペットボトルキャップの回収箱を設置しました。ここで回収されたペットボトルキャップは「NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JCV)」に寄付されます。集められたキャップは、JCVがリサイクル資源として売却。その売却益で開発途上国の子どもたちにワクチンを届け、子どもたちの未来を守る活動「子どもワクチン支援」を行っています。

#3 フードドライブ

毎年3月、食品ロスの削減を目的に、当法人内で余った飲料水を大阪市に無償譲渡する取り組みを行っています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

■ 編集後記

「Delight」創刊号の編集に携わりました和田と申します。普段は大宮ケアホーム光で事務を担当しております。今回のテーマは「リハビリ」とのことで、利用者様や職員の方に取材を進めさせていただくと、新しい発見や創意工夫がたくさん出てきて、改めて私自身も勉強になりました。ただ運動するだけでなく、会話や所作を通じて、利用者様とのコミュニケーションや信頼関係を築く場として、一生懸命取り組んでいる職員の皆様には頭が下がる思いです。「Delight」では今後もさまざまな角度から浩治会取材してまいりますので、お手にとっていただいた皆様には、ぜひ隔々までご覧いただければ幸いです。



和田 大地
医療法人浩治会
(大宮ケアホーム)